

# 現代版組踊 肝高の阿麻和利

国際日本学部 国際文化交流学科3年 西川 美咲

私は11月16日に行われた「沖縄芸能フェスティバル2024」を鑑賞してきました。三線や箏、胡弓といった琉球に古くから伝わる楽器での演奏と、それに合わせて踊る琉球舞踊や歌謡等が披露されましたが、中でも私が楽しみにしていたのが「現代版組踊 肝高の阿麻和利」でした。古琉球古典芸能「組踊」の手法を用いながら、地域に眠る伝承・伝説に新たなアレンジを加えて創作されたのが「現代版組踊」です。

今回披露されたのが、沖縄県うるま市の勝連城10代目城主「阿麻和利」の半生を描いた歴史舞台「肝高の阿麻和利」でした。子どもの無気力化や地域からの若者の流出問題を解決するための取り組みとして始まった現代版組踊は、現在では文化活動を通して青少年の人材育成と地域興しの新たな手法として沖縄県内だけでなく全国へと広がっています。中学生を中心とした地域の若者たちが演じ、地域の大人たちが出演者を支える「子どもと大人が参画する活動」であることが特徴です。また、拠点とする地域に由来する歴史や伝承、史跡、人物の物語を題材とし、さらにそれを若い世代が演じることによって、郷土への誇りを育てる

きっかけ作りにもなっていることも大きな特徴の一つです。

そのエピソードを聞いただけでも大変魅力的な活動ですが、実際に舞台を鑑賞して感じた魅力は、想像をはるかに超えるものでした。広い舞台の奥の方まで演者さんがいましたがどの位置で踊っている方も一人一人が一生懸命で、台詞がない方からも、演じている役や勝連城の歴史に対する熱い想いが、力強い所作や表情を通して伝わってきました。全員が無我夢中で演じており、観客までもその世界観に引き込まれてしまう、この空間に圧倒され、心から憧れました。一人一人の全力で取り組む姿にお互いが影響を受け合って相乗効果が生み出されている空間であると感じました。

私が所属する島川ゼミでは「全員がゼミ長」というテーマのもと活動しております。今回公演を鑑賞して、一人一人がそれぞれの就職志望先を目指しながらも、全力で頑張る姿に互いが影響を受け合っていてそれぞれの力が最大限発揮できるような空間を学生生活の最後まで作っていききたいと感じました。

## 参考文献

- ・「沖縄芸能フェスティバル2024」パンフレット
- ・現代版組踊とは。現代版組踊推進協議会  
〈<https://www.gendaibankuniodori.com/whats/>〉（最終観覧日2024年12月10日）